

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税金は全国民共通のプレゼント

山江村立山江中学校

二年 尾方 美和子

「税金」とは、全国民が贈れる全国民へのプレゼントなのだと思う。

私は未成年の為、主に消費税は払えるが、他の税は払うことが難しい。でもそんな未成年である私も、消費税というプレゼントを国民の誰かに贈れているのだと考えている。

そのたった何十円の税金でも、一日で国民の百人が買い物をすれば千円に、千人が買い物をすれば一万円になる。一万円あれば本が十冊以上買えるし、文房具などもたくさん買える。「ちりも積もれば山となる」ということわざがあるが、それと同じで子供が払える税金でも、大人数の子供が払えばとても大きい金額になる。その税金は、日本中、世界中の人々の暮らしを支えて豊かにできる、きつととても有意義なプレゼントになるのではないだろうか。

では、そのプレゼントが贈れなくなってしまうとどうなるのだろうか。先程から名前を出している消費税で考えてみよう。

主に消費税は私達国民にとって最も身近であり、実際に国の税收は消費税による収入が最も多く占めている。つまり、消費税という何十円、何百円の税金を国民全員が払わなくなると何億円という金額が国の為に使われなくなるか、国が全額補償するため不景気になるかで、今のような豊かな社会にはならなかった可能性がある。道が荒れても整備されず、信号が無い為交通事故が頻繁に起こり、警察や消防はお金を払わないと動いてもらえないなど、人々の暮らしから笑顔が消え、豊かとは程遠い社会になる。しかも、災害が起こっても復旧工事や被災した方々への食料や家の支援がおろそかになり、日本がぼろぼろになっていってしまう。

そのような社会に、私は絶対にしたくはない。だから、私は将来ちゃんと税金を払っていききたいし、国民全員もきちんと税金を払って、国民全員で豊かな社会を創っていききたい。しかし、世の中には「税金は払う意味があるのだろうか」「国からお金をとられている」という風に考える人も少なからず居るだろう。その人達にはぜひ、税金がどのように使われているのかを知り、「税金は国民、そして自分へのプレゼント」という考え方をしたい。そして、国民全員が笑顔でプレゼントを贈り合えるような社会になることを、私は願っている。